

夏の伝統行事 7月

7月2日（土）、今年も湯立神楽伝承勉強会が北久原神社の社務所で行われました。神楽の先輩である伝承者の皆さん、神楽を担う若手の皆さん、神楽保存会役員の皆さんが集まり、7月23日（土）に行われる湯立神楽の準備をしました。昨年まで縄ないや草鞋づくりなどを教えてくださった二人の大先輩が亡くなられたため、伝承者の方でも「いろいろ作るのは難しいなあ。」と技術の伝承の難しさをつぶやいていました。それでも、それぞれの持ち場で湯立神楽の準備が進みました。



社務所の中では紙垂（しで）作り 社務所の外では縄ない・草鞋

区でも回覧板で湯立神楽や夏祈禱のお知らせをしました。ぜひ、多くの区民の皆さんに神楽に頭をカチカチしていただいて、疫病退散（コロナ）、無病息災を祈っていただけると嬉しいです。その両日共に都合の悪い方は、7月30日（土）に行われる区サマーフェスティバルにおいでいただければ、神楽の舞を見ることができます。

ぜひ、足を運んで区の伝統儀式をご覧ください。

この会があればこそ、湯立神楽が明治20年からずっと存続してきたことがよく分かります。神楽の舞やお囃子の練習は勿論のこと、7月23日（土）に北久原浅間神社で行われる湯立神楽、24日（日）に行われる夏祈禱の際に、使用する物を手作りで用意します。地区によっては後継者がいなくなり、この伝統儀式が姿を消してしまったという話もあります。先輩の伝承者から若い後継者に丁寧に引き継がれ、歴史と伝統を積み重ねてこられてきたことに本当に頭の下がる思いです。



藁をよじって縄に



若手に菰作りの伝承